

令和5年度 熊本県 英語教育改善プラン

目標

自分の住んでいる地域や郷土熊本に誇りを持ち、多様な文化をもつ人々と、英語で考えや気持ちを伝え合う児童
英語学習に興味を持ち、異文化交流体験や外部検定試験等に積極的にチャレンジし、主体的に学び続ける児童
※【指標】小6「英語が好き」と回答した児童の割合75%以上を目指す。

1. 現状

改善が進んだ点

- ①「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の「設定」99.2%、「公表」71.0%、「把握」97.5%で、全て前年度より向上
- ②小小、小中の情報交換や交流等の連携に向けた取組が増加

未だ改善が必要な点

- ①英語の授業が「好き」と回答する児童の割合の低下
- ②英語教育推進に向けた取組の学校間格差及び英語担当教員の指導力の格差

2. 分析

- ①・県版CAN-DOリストの配付及び、目標と指導と評価の一体化をテーマにした研修の実施
・CAN-DOリストを活用した授業実践事例の周知・活用
- ②市町村教育委員会や校長のリーダーシップによる研修会や交流授業等の機会の増加

- ①児童がコミュニケーションの楽しさや学びの達成感を自覚できる授業実践に課題
- ②・教科外国語について教員が学び合う機会が少なく、学習指導要領を踏まえた指導や評価についての理解が不十分
・指導力のある教員の実践が共有されていない

3. 施策・事業

- ①目標と指導と評価の一体化を図る授業実践事例の発信
・学習到達目標を踏まえたパフォーマンステストや自作の単元テストの実践事例の具体を収集し、各研修会（集合・オンライン）やHP等で紹介
- ②小中高連携モデル校事業の具体的事例を発信
・小中高連携に関する研修会やHP等において、校種間連携について、市町村委員会及び学校における 具体的な取組を紹介
- ①②「英語授業づくりプロジェクト」の実施
・各地域で英語教育の推進役を担う教員（プロジェクトリーダー）を対象とした研修を実施
・各地域の優れた授業実践をもつ教員（プロジェクトリーダー）による公開授業、模擬授業、実践交流を地域ごとに実施
・各地域の教科等研究会と連携し、域内の英語教育の課題克服に向けた一貫性のある研修等を実施

※他にも、生徒の英語の発信力強化に向けて、「肥後っ子ふるさと自慢イングリッシュ・コンテスト」を実施予定

- 本県における一定の英語力を有する小学校教員の新規採用に係る取組
- ・小学校教諭等受考者における一定の英語力を有する者への加点制度
- ・小学校教諭等受考者における青年海外協力隊等勤務経験者への特別選考制度（考査内容の一部免除制度）
- ・中学校教諭等受考者に対する小学校教諭等の併願制度
- ※中学校英語を受考する際、第2希望として小学校を併願することができる

令和 5 年度 熊本県 英語教育改善プラン

目標

自分の住んでいる地域や郷土熊本に誇りを持ち、多様な文化をもつ人々と、英語で考えや気持ちを伝え合う生徒
英語学習に興味を持ち、異文化交流体験や外部検定試験等に積極的にチャレンジし、主体的に学び続ける生徒
※【指標】中3「CEFR A1レベル相当以上の取得者」の割合40%以上を目指す。

1. 現状

改善が進んだ点

- ①「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の「設定」100%、「公表」81.8%、「達成状況」94.2%で、全て前年度より向上
- ②授業における生徒の英語による言語活動時間の割合の増加

未だ改善が必要な点

- ①スピーキングテストやライティングテスト等のパフォーマンステストの計画的な実施及び言語活動の質の向上
- ②中1から中2への学びの接続、知識及び技能の確実な定着

2. 分析

- ①全ての中学校英語担当教員の研修の実施（令和4年度新規）や各教育事務所等における継続的な指導助言
- ②・義務教育課、教育事務所、教育センター指導主事等による参観授業及び指導助言
・各校の教科部会への指導助言

- ①・目的、場面、状況等を設定し、自分の気持ちや考えを伝え合う言語活動の質及び量に課題
- ②・学習到達目標を踏まえた単元ゴール設定や単元構想の在り方に課題
・基礎的・基本的事項の習得状況の把握及び事後指導に課題

3. 施策・事業

- ①②「熊本の学び」わくわくサークルの実施
 - ・日頃の授業実践に役立つ授業づくりのヒントやアイデアの交流及び協議による授業改善の促進
 - ・オンラインでの実施により、他校や他管内の教員、指導主事等との意見交換の場の提供
 - ・中学校のみならず、小学校からの参加も可能
 - ①②「英語授業づくりプロジェクト」の実施
 - ・各地域で英語教育の推進役を担う教員（プロジェクトリーダー）を対象としたリーダー研修を実施
 - ・各地域の優れた授業実践をもつ教員（プロジェクトリーダー）による公開授業、模擬授業、実践交流を実施
 - ・各地域の教科等研究会と連携し、域内の英語教育の課題克服に向けた一貫性のある研修等を実施
 - ①②英語教育に係る「好事例資料」の周知・活用
 - ・スーパーティーチャーやプロジェクトリーダーの優れた授業実践をまとめた「好事例資料」の各種研修会での活用、本課HPへのアップ
- ※他にも、生徒の英語の発信力強化に向けて、「肥後っ子ふるさと自慢イングリッシュ・コンテスト」を実施予定

令和5年度 熊本県 英語教育改善プラン

目標

英語を使って国内外で活躍できるグローバル人材の育成に資するため
CEFR A2レベル相当の英語力を持つ高3生徒の割合を45%とする

1. 現状

改善が進んだ点

①スピーキング・ライティングの両方のパフォーマンステスト実施率が61.8%と14.5ポイント上昇

②CEFR B1レベル相当以上の英語力を持つ生徒の割合が18.7%で上位層が育っている

未だ改善が必要な点

①授業中の生徒の言語活動を半分以上行っている割合が43.8%であり、学校間の差が大きい

②教師の英語力は高いレベルにあるが（CEFR B2以上85.1%、C1以上17.3%）発話の半分以上を英語で行っている割合は4割程度にとどまる

2. 分析

①各校での評価に対する意識向上や、県教委主導のパフォーマンステストの作成と各校への配布

②ALTの教科等横断的活用や即興型英語ディベートの推進等により英語の使用場面を多く設定している学校がある

①発信力を強化するような4技能統合型の言語活動の指導方法の研修や共有が不十分である

②日本語中心の講義型の授業が行われており、生徒の実態に応じた授業中の英語使用に関する研修等が不十分である

3. 施策・事業

(1) 4技能をバランス良く育成しながら生徒にCEFR A2レベル相当以上の実践的な英語力を身につけさせる

(2)

①指導と評価の計画やパフォーマンステストの評価に基づく指導と評価の一体化を図るため、学校訪問等による継続的な指導・助言を行う

②先進的な取組等の事例提供を行うとともにICTやALTの専門性を活かした教科等横断型授業を推進する

①「英語フロンティアハイスクール」
発信力強化のため、生徒向けの即興型英語ディベート交流会等を実施。また、先進的な取組の事例共有や外部専門家による教員向け研修会により、授業力向上を図る

②「高校英語教員指導力向上事業」
技能統合型の言語活動の充実や英語で行う授業の推進のため、各校の好事例の共有や公開授業を通じて教員の指導技術の向上を促進し、授業力の底上げを図る